

登山月報



アクタシ(7,016m)



第8回リードユース日本選手権南砺大会報告	2
第144回 Mountain World	4
新連載 Enjoy Climbing	5
令和2年度安全登山指導者研修会「東部地区」報告	7
2020年 I S M F 総会報告	9
第17回山岳遭難事故調査報告書(3)	10
コロナ禍の中で、その後で(その3)	12
J M S C A、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

第8回リードユース日本選手権南砺大会報告

今年3月、COVID-19感染拡大により延期となっていたリードユース日本選手権を、7月にリニューアルされた富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター＊(Photo1)にて開催した。大会数日前には、台風14号による影響が懸念されたが、東にそれたこともあるが、このエリア特有の天候により問題なく開催することができた。7月下旬、あるセッターから桜ヶ池クライミングセンターがリニューアル(民営)され、非常にいい施設ができたと情報が入った。大会の再開を検討している中、各会場のCOVID-19対策やスケジュールで会場が確保できない状況が続いておりこの情報に飛びついた。もともとJOCジュニアオリンピックカップを長く開催してきたこともあるが、各団体の協力を得て2ヶ月間の準備で開催に漕ぎつけることができた。改めて、この大会に関わった全ての方にお礼を申し上げます。

Report 1 大会概要

大会名：スポーツクライミング第8回ユースリード日本選手権南砺大会(以下LYC2020)

期 日：2020年10月10日(土) - 12日(月)

10/10 ユースA男子、ユースA女子、ユースB男子、ユースC女子

10/11 ジュニア男子、ユースB女子、ユースC男子、ジュニア女子

会 場：桜ヶ池クライミングセンター

選 手：男子126人 女子129人 合計255人

L J C 2020同様、COVID-19に対する感染防止対策を徹底し、健康check、無観客、3日間の開催とした。ただ



Photo 1



ユースの場合、帯同者が多くなるためランドごとの受付、終了後の退場、決勝においてはランドごとに表彰式を行い3密防止に努めた。

Report 2 競技状況、成績

ユースC男子				ユースC女子			
1	藏敷 慎人	MC30	TOP	1	小田 菜摘	WC07	42+
2	石原 凜空	MC12	35+	2	関川 愛音	WC27	40+
3	三竿 莉平	MC37	33+	3	藤村 侃奈	WC09	38

ユースB男子				ユースB女子			
1	安楽 宙斗	MB31	45	1	森 奈央	WB34	48
2	通谷 律	MB04	32+	2	抜井 美緒	WB38	47
3	猪鼻 碧人	MB08	32+	3	小池 はな	WB39	46

ユースA男子				ユースA女子			
1	吉田 智音	MA13	43+	1	谷井 菜月	WA27	TOP
2	田中 裕也	MA32	38	2	久米乃ノ華	WA33	48+
3	上村 悠樹	MA12	37+	3	阿部 桃子	WA06	48+

ジュニア男子				ジュニア女子			
1	百合草碧皇	MJ04	43	1	小島 果琳	WJ04	40+
2	西田 秀聖	MJ09	36	2	二宮 凜	WJ05	40+
3	大政 涼	MJ02	34+	3	栗田 湖有	WJ06	37

ユースC：男子は、予選1位の藏敷慎人がただ一人完登で優勝。女子も予選両ルート完登で1位通過の小田菜摘が、トップまで迫り42+で優勝。

＊ユースBからジュニアまで同ルート。奥の壁からサイド壁へ渡っていくルートで、男子50手、女子54手の持久系+テクニカルなルート。

ユースB：男子は、渡り手前で落下する選手が多い中、予選1位の安楽宙斗が渡りを越えトップ手前の高度45まで迫る登りで優勝。昨年はユースボルダリング、JOCともにユースCで2位となったが、今回ジュニアと同ルートでジュニア、ユースAを押さえて1番の高度を獲得。確実な成長を感じた。

女子は、8月のL J C 2020で上位に入った小池はな(6位)、抜井美緒(11位)、森奈央(12位)の争いとなった。渡りの後のトラバースを迷わない手順で進んだ森が高度48で優勝。

ユースA：男子は、L J C 2020で2位の吉田智音が43+で優勝。昨年のユースBに続く連覇を決めた。

女子ユースAには、実力者が多く予選で5選手が両ルートを完登し混戦となっていたが、昨年ブリアンソンWCで3位、8月のL J C 2020で5位となった谷井菜月が完登し優勝。(全カテゴリー1位)。森秋彩、伊藤ふたばが欠場する中、確実な登りは一歩抜け出していた。



安楽 宙斗



谷井 菜月



ジュニア：男子は、L J C 2020 優勝の西田秀聖が予選を1位通過。決勝では、渡り手前のところで足が滑った感じのフォールで高度36の2位に終わる。逆に予選2位の百合草碧皇が43まで伸ばすことができ優勝を勝ち取る。女子は、小島果琳と二宮凜が同高度40+となりタイム差で小島が決勝する。

Report 3 マーケティング

1. 入場数

	選手	帯同	スタッフ	メディア	視察	来賓	合計
10/10	154	89	108	6	3	0	360
10/11	101	0	108	3	3	0	285
10/12	75	50	108	7	7	2	249

2. 露出関係 (5件) 以下一部

- 中日新聞 10月11日 全国クライミング熱戦 南砺・桜ヶ池センター改修後初開催
- 朝日新聞 10月14日 最新の壁 ユース255人挑む
- 佐賀新聞 10 通谷 (伊万里中) が2位 スポーツクライミング・リードユース日本選手権・ユースB

3. YouTube

視聴：決勝当日1000～1500、1週間後10500

4. その他

大会イメージ参考 (下記URL、QR)

https://youtu.be/-kOEPa_HZbg



(記 村岡正己)

Report 4 開催地

桜ヶ池クライミングセンター センター長 中橋沙羅

リニューアル工事完了から3ヶ月という短い期間で、このような大規模な大会を誘致できたこと、大変嬉しく存じます。

大会に対しご尽力いただきました、JMSCA関係者ならびに富山県山岳連盟、他県からの利用にも寛容な対応をしていただきました地元の皆様にも熱く御礼申し上げます。

桜ヶ池クライミングセンターは皆さんがご存知の通

り、JOCジュニアオリンピックカップ大会を19年させていただきます。その折、利用されていたT社のパターン壁、フリクションのないパネル等はすべて撤去。ポリウムやハリボテをつけやすくなおかつ見栄えのよい、E社のパネルに改装しました。セッター陣が桜ヶ池といえば渡りだろうと、苦勞してつなげてくださり、伝統を残してくださりました。今後も渡れるかは現場のノリにかかっているでしょうが、何度かお目にかかるような気がしてなりません。

この原稿を書いている現在(10/29)、大会から2週間以上が経ちましたが、スタッフや近隣住民からコロナが発症したという報告は一切聞こえておりません。このことが大会においてなによりの成功かと存じます。

みなさま、また富山で会いましょう。お待ちしております。

富山県山岳連盟 畑中 渉

「もしかして来年も継続開催？」淡い期待を持っていた県内関係者に向けて開口一番「長年、お疲れ様でした～」大会実行委員長のこの一言でJOC南砺大会の歴史はサラッと終わりを告げました。ところが翌年(今年)6月「コロナ禍で延期中のLYCを10月頃南砺市でどう？」との打診があり、準備に向けて動き始めます。

殆どの自治体でイベントを自粛している中、まずは桜ヶ池クライミングセンターの意向、富山県、南砺市、城端町、県山岳連盟の承認と高いハードルをクリアする必要がありますがありました。

遡る事2月、南砺市が譲渡先を公募していた桜ヶ池クライミングセンターを北陸電気工事・平野電業がスポーツ振興とともに電柱などの高所作業人材の確保にも繋げたい考えから共同取得し、全面リニューアルを果たします。そのオープニングを飾る大会開催を希望していた会社側とJMSCA側の思惑が一致し、後はドミノ倒しの如くオールクリアに。やはり、8月盛岡で注目される中で行われたLJC成功(万全の感染対策)が大きな要因となりました。

大会中、コロナ対策として、①選手・帯同者には2週間、及び競技当日の健康チェック表記入提出(体温含む)②マイロープ持参③コロナウイルス接触確認アプリCOCO A登録④無観客⑤アイソ・ウォームアップエリアの時間、人数管理などを徹底して行いました。これらは大枠として今後の大会スタンダードになる事と思います。

未来(パリ)へ向かうユース世代の選手たちに今後の希望や目標を少しでも与える事ができたのであれば「夏の聖地」としての面目躍如を果たせたのではないのでしょうか？

本年度、富山県内唯一の全国大会でした。

第144回 Mountain World

ヒマラヤ登山再開 冬季K2へ公募隊も

池田常道

新型コロナウイルスの流行で稼ぎ時の春シーズンを棒に振ったネパールは、秋の登山再開をめざし3月13日に発していた登山禁止令を解いたが、入国時の検査と隔離などさまざまな理由で解禁は9月にずれ込んでしまった。それでも、バーレーンの王室警護隊が来春に予定しているエヴェレストのトレーニングとしてマナスル(8163m)に登るなど、遅ればせながらシーズンが始まった。

ナセル・ビン・ハマッド皇太子の率いるバーレーン隊15人はチャーター機でカトマンズ空港に入り、入国時のPCRテストに続く1週間の隔離を終えてキャンプに入り、10月3日ロブチェ・ピーク(6119m)に登頂する一方、シェルパ・チームをマナスルに送って北東稜C4(7400m)までのルート工作に当たらせた。一行には、HIMEX公募隊でガイドを務めたアーノルド・コスター(オランダ)ら3人のヨーロッパ人が加わっていた。マナスル頂上に立ったのは10月15日で、隊員14人とガイド3人が登頂した。ネパールの8000m峰では今年初めての登頂である。

また、チベット側では、春と同様中国隊に限って登山が許可され、大規模な公募隊(チベット・ヒマラヤン・エクスペディション)がチョー・オユウ(8188m)に向かった。一行は9月14日にBCを設け、クライアント12人とガイド11人が30日、頂上に立った。ネパール/チベットの8000m峰登頂成功は、春のエヴェレストで51人が登頂した中国隊を含めて3隊となった。

ネパール人のみの隊では、アジアン・トレッキングのダワ・スティーブン・シェルパ以下7人の「ネパール・ツーリズム・リカバリー」隊がやはり10月15日バルンツェ(7129m)に全員登頂した。頂上に立ったのはダワ・スティーブン以下ナガ・ドルジ、サムデン・ボーテ、ラクパ・ヌル、ペンバ・ツェリン、サミル・ジュン・タパ、ツェリン・トウンドウ。

パキスタンは8月8日から外国登山隊の受け入れを決めた。ドイツのサミットクライム公募隊はフェーリクス・ベルク隊長とパキスタンガイドのミルザ・アリ・ベグがドイツ人クライアント3人を率いて、シム

シャル谷の未踏峰を目ざした。天山山脈のハン・テングリを狙ったが、コロナ禍でキルギスタンに入れなくなったため変更したもの。一行は8月20日に5770m峰に登り、25日には6105m峰にも登頂した。

フンザの未踏峰ムチュチッシュ(7452m)にはチェコのパベル・コリネク、パベル・ベム、イジ・ヤナクが、2014年に英国のジム・オーツら3人が試みた南西面から挑んだ。ところが、8月24日にドローンを飛ばしていたコリネクが自分の手に「着陸」させてしまい、プロペラを損傷、自らも負傷した。

スペインのジョルディ・トサスはフィリップ・ブルツガーと引き続いて挑んだが、トサスが7000mに迫ったところで断念、スキーで滑降するに留まった。

サード・モハメッド隊長のパキスタン隊はラキオト・ピーク(7074m)に向かったが5700mから上の氷河地帯を乗り切れずに断念した。

コリン・ヘイリー(米)は、シアトルの友人、ジェフとプリティのライト夫妻に合流してナンマー谷に入り、K6西峰(7040m)から主峰(7282m)への縦走に向かったものの、ドゥリフィカ(6447m)で順応後、7月初めに体調を崩して断念。ライト夫妻は南西稜から西峰に第3登し、中央峰まで縦走して初登頂した。さらに1970年のオーストリア隊以来となる主峰を狙ったが、寒気と強風で断念した。

バトゥラ山群では、フランスのシモン・ヴェルフランジェとピエリック・フィーヌがサニ・ポククシュ(6951m)の第2登を新ルートの南壁から果たした。10月16日に取り付いて3日目に稜線に到達。19日午後2時頂上に立ち、2500mの南壁(ED+)を懸垂25回とダウンクライミングをまじえて下降した。

冬季未踏のK2(8611m)にはこの冬、ネパールのセブンサミット・トレックスが30人規模の公募隊で挑むが、経験の乏しさが懸念材料となっている。



冬季K2挑戦に向け、すでに物資がBCに運び込まれた

最近のウインタークライミングについて (1 dayのススメ)

種石英典

ウインタークライミングについて何か書いてくれと依頼されたので、ここ2～3年で私が繰り返し行っている1 dayクライミングについて書きたい。

時間が限られる会社員アルパインクライマーにとって少しでも一助になればと思う。

1 dayクライミングとはアプローチを含めて通常2～3日かけるウインタークライミングを24時間1 dayで行うことだ。

30Lザックに全て収まるぐらいに切り詰めた装備と共に、深夜1時、2時に駐車場を出発。長いアプローチをこなし、メインの壁を登りきり、その日のうちに下山する。

以下私がここ2～3年で1 dayで登った主な国内ルートである。(全て2月or 3月の積雪期)

- 滝谷第三尾根～ドーム中央稜継続
- 谷川岳烏帽子岩奥壁大氷柱
- 谷川岳滝沢第三スラブ
- 谷川岳滝沢リッジ
- 海谷駒ヶ岳カネコロソ
- 鹿島槍北壁主稜
- 唐沢岳幕岩大凹角ルート
- 甲斐駒ヶ岳赤石沢奥壁左ルンゼ
- 剣岳R 4

この他にも錫杖や米子不動でも行っており、日本のウインタークライミングエリアを全て網羅していると言ってもよいだろう。

そう、日本のウインタークライミングにおいて1 dayで登れないルートは無いと言っても過言ではないだろう。

1 dayクライミングのメリットは大きく5つあると思う。

まず1つ目は、「家族と過ごせる時間が増える」ということだ。

一般的な土日休みの会社員であれば、土曜登って日曜は家族サービスということが可能になる。

奥さんからのクライミングの許しも格段に得やすくなるだろう(笑)。

2つ目は「会社での仕事に影響し難くなる」ということだ。通常、年を重ねるごとに責任ある役職や仕事を任



谷川岳烏帽子岩奥壁大氷柱 3p目

せられるはずだ。

土曜、日曜と2日登ると疲れ果て、どうしても翌月曜日から仕事に影響すると思う。

土曜登って日曜を休みに充てれば、月曜日に向けて体調を整えられる。

3つ目は「クライミングのチャンスが広がる」ということだ。

ある壁を登るとき、必要なクライミング日数が2日となれば、2日天気の良い日が必要である。

1日で登り切れる実力があれば、1日だけ天気の良い日があればよい。冬山のように不安定な天気の中、クライミングできるチャンスは大いに増えるだろう。

4つ目は「ヨーロッパアルプスを中心としたアルパインスタイルへ適応できるようになる」ということだ。

Light&Fastで大きな壁を1日で登りきることを国内で練習しておけば、アルプスやアラスカなど海外での冬壁に挑戦することも容易くなる。

5つ目は「重い冬のテント泊装備から解放される」ということだ。学生時代とは異なり体力が年々減少する中年クライマーでも楽しく冬壁に取り組むことができるはず。

ただ、重い荷物が担げなくなるのは、それはそれで問題だが……

一般的な会社員でも、20代独身の時であれば多少の無茶は可能であろう。

しかし、結婚・出産・昇進などを経て、どうしてもクライミングにかけられる時間は年々減っていくものだ。

その時にこの1 dayクライミングが可能になれば、長くウインタークライミングを続けることが可能になると思う。

最後に1 dayクライミングを行う上での大事なことやTipsを5つ紹介したい。

1つ目は、「24時間行動し続けられる体力、集中力」である。

これは最も大事なことである。しかし、この力が無い

日本人クライマーは多いと思う。

まずは八ヶ岳や錫杖など初心者エリアで訓練して欲しい。慣れという面も大いにあるので、繰り返し行えば必ずできるようになるはずだ。

2つ目は、「夜間行動への慣れ」である。深夜に出発し、暗い中冬山を歩きアプローチする。

また、暗い中でのクライミングや深夜までの残業はデフォルトである。ヘッドランプで冬山や壁を登ることに慣れよう。

これも繰り返し行えば必ずできるようになるはずだ。

3つ目は、「ラッセル力」これは言わずもがなである。長いアプローチでのラッセルは必要である。

ただし、日帰り装備なので多少は楽かもしれない。最新のスノーシューであれば、ある程度の斜度も登れるので選択肢のひとつに加えて欲しい。

4つ目は、「たくさんの水を携帯する」ことだ。行動時間が長くなるので、冬と言えども1.5l~2lの水は必要だと思う。

水分不足は凍傷や体調不良の原因となるのでここは切り詰めない方がよい。ガスコンロも持っていかないので万が一のときは致命傷になる。

5つ目は、「装備の軽量化」である。Light&Fastで少し

でも早く登るために軽量化は必須。

冬壁を1分でも早く登れば、それだけ生還率も上がることを認識して欲しい。ビバーク装備も最低限にすること。

不安になっていると持ちだすとそれだけ重くなり行動も遅くなる。(だったら2日かけてテントを担いだ方がよい)

最後に・・・テント装備を担いでの、冬壁とがっぷりよつや冬山長期縦走、気の置けない仲間とのテントでの団欒はもちろんととても楽しいものである。

しかし、環境や時間を理由に、冬壁を八ヶ岳以外で登ることを諦めているクライマーはぜひ1dayクライミングにチャレンジしてみたい。

きっと無限の可能性があると気づくだろう。

絶滅危惧種であるアルパインクライマーの仲間が少しでも増える(減らない)ことを心から願っています。

種石英典 (Taneishi Hidesuke)

1986年生まれ。銀行に勤めるかわら、国内外でのクライミングを楽しんでいる。山だけじゃなく、仕事も家庭も大切にしているのがポリシー。主な登攀記録は、谷川岳烏帽子沢奥壁大氷柱、海谷駒ヶ岳カネコロン、冬季滝谷第三尾根ドーム中央稜連続1デイなどの他、アラスカやアルプス、カナダ、南米など海外遠征も多数。フリーも13a以上を数本登る。



鹿島槍北壁アプローチ中。北壁をトラバース



谷川岳滝沢第三スラブの取り付け



滝谷の最奥、C沢右俣奥壁～第4尾根を見る



赤石沢奥壁左ルンゼ 日本離れた風景を楽しむ赤石沢奥壁



海谷駒ヶ岳カネコロン ラッセルをこなすこと8時間やると氷とご対面

令和2年度安全登山指導者研修会「東部地区」報告

全国で新型コロナウイルス感染者が増加していて、9月24日までは「福井県感染拡大警報」が発令されている中、令和2年9月19日(土)～21日(月)の3日間、福井県大野市にある奥越高原青少年自然の家と奥越高原自然公園において、全国から28名の研修生を迎えて、令和2年度安全登山指導者研修会「東部地区」が開催されました。本研修会は、徹底したコロナ感染予防を実施する必要があり、屋内講義、屋外実技研修、休憩時、食事時、入浴時も、金沢大学附属病院の水腰講師から様々な留意事項の指示をうけて万全の体制での研修会の実施ということになりました。

メインテーマは「気象」になっており、その「気象」に加え、「山でのP D C A」、「山での道迷い防止(読図)」、「セルフレスキュー&搬送」と、かなり濃密な講義スケジュールでしたが、幸いにも(?)新型コロナの影響で2日目の情報交換会を中止にしていたため、2日目の夜も研修にあてることができ、何とかこの濃密な研修内容をこなすことができました。

第1日目は、北村講師より登山客から「山でのP D C A」を実践する自立した登山者を育てる指導者になることの重要性を講義されました。

次に水腰講師より、山で傷病者に遭遇した際の対応手順としての「3 S A B C D E」と、山での3大死因である「外傷」、「低体温症」、「心臓病」について講義をされました。

休憩後、今回のメインテーマである「気象」について、猪熊講師より、気象学の基本から、低体温症や落雷、雪崩などの気象遭難のメカニズムやその対処法について講義されました。

夕食後、翌日の実技研修で実施する「3 S A B C D E」についてのビデオ研修を受け、最後に村越講師より、登



参加者全員による記念撮影

山計画を立てる上で読図によるチェックポイント(C P)の設定の考え方の説明があり、翌日の実技研修のルート上のC P設定を6班に分かれてそれぞれがグループ討議で設定しました。

第2日目は、午前中は6班に分かれて行動し、前日に設定した登山ルートに従い、それぞれが設定したC Pについて、実際の場所での確認とその場での判断を行うとともに、ルート後半では各班が2グループに分かれ、それぞれがルートの特徴や想定される危険場所での注意等について模擬指導を行いました。その途中途中において、猪熊講師から雲を観察して天気を予想する「観天望気」実習も実施しました。

午後は、広場で前日にビデオ研修を行った「3 S A B C D E」について、2名で交互に何度も実践トレーニングをし、その後、サムスプリントでの頸椎保護、三角巾による上肢固定や、サムスプリントなどでの骨盤固定の方法を実践しました。夕食後に、本日の読図研修でのC P判断や模擬指導について各班が実施しているビデオ映像を見ながら村越講師や他の講師の方々からのコメントや他の受講生からの意見等を交えました。その後、福井県山岳連盟より、ストックを使った松葉づえ作成、ザック等を使った搬送法の実技研修をしました。

第3日目は、福井県山岳連盟が平成9年度より実施している、安全登山普及の取り組みについての報告をし、その後、山のP D C Aについて、安全登山の指導者として新人を連れての夏合宿のための事前トレーニングのプランを各班で作成するため、グループ研究討議を行い、その後、各班からの発表について講師陣、他の受講生からの討議を行いました。

今回の研修会では、初日の座学を受講したうえでの2日目の実技研修において、実際の現場で検証することで、実践的な技術を身に付け、指導者として指導していく手法も学ぶことができたと思います。ご尽力いただいた講師の方々、関係者、熱心な受講生に感謝申し上げます。ありがとうございました。(福井県山岳連盟)



気象(観天望気)の実技研修風景

令和2年度安全登山指導者研修会 (東部地区)に参加して

沼田山岳会 片野直子

9月19日～21日に福井県大野市で行われた研修会に参加させていただきました。各分野の第一人者の先生方により、登山のPDCA、救急法と搬送、気象、ナビゲーション、それぞれ内容の濃い指導を受けることができました。また、各都県から集まった参加者の方々とお話しさせていただき、新しい出会いにも恵まれた実り多い3日間でした。今回は講義も、実技も、ついていくのに精いっぱいでしたので、今後ひとつずつ経験を積み、こうした研修に定期的に参加して、スキルアップしていきたいと思えます。

ところで、私は谷川岳のふもと、群馬県のみなかみ町に住んでいます。みなかみ町は、登山やラフティングやキャニオニングといったアウトドアアクティビティが盛んで、観光業が町の要の産業となっています。私も町の観光振興施策の一環である、アウトドアガイドの方向けの研修事業に携わっており、「効果的な研修を企画するには」という視点からも、今回の参加は大変意義のあるものになりました。実施内容は上記の通りなので、以下では研修の運営という視点で勉強になったことを3点にしばり考えてみます。

1点目に「講義」と参加者主体の「ワーク」の配分についてです。講師が主に話す講義形式の研修会では、専門的な内容を多く盛り込めますが、受講者側の興味関心、必要性によって、受け身な態度になってしまうというデメリットがあります。一方で、ペアワークなど、自分で考えて言葉にする活動を入れると、記憶の定着度や自発性の喚起に役立つと言われていますが、課題の内容や説明の仕方、問いかけの良し悪しによって、研修の成果に大きな差が出る可能性があります。また、基礎的な知識がある程度共有していることが実施条件になります。

今回の研修では、1日目の講義でベースとなる知識や手法を学び、研修後半では主体的に発言・行動するこ

とが求められました。講義とワークを連携させた構成が、内容の理解・定着に効果があることや、自分の発言をグループのメンバーに修正・補足してもらうことで、学習内容のクオリティが上がるのが、自分の中で確認できました。また、参加者全員の発言を促し、成果と満足度をムラなく高めるためには、進行方法の丁寧な説明と、ある程度の第三者的視点からの介入が必要だということも感じました。参加者からは指導方法のスタイルを持ち帰って試したい、という声が聞かれました。

2点目は、研修参加者や講師、運営の方々との関係性です。講義の中では「登山技術の指導を行うときの環境」が大切な要素として紹介されていましたが、研修で得られる成果を最大化するためにも、人間関係が良好で、自分の発言が否定されない、という安心感が重要だといわれています。寝食をともにした合宿研修は、お互いの人柄が分かるので、そのような学びの環境が整いやすいのではないかと思います。さらに、参加者全員が自分や自分の属するグループの登山をよりよくしたい、という強い思いを共通に持っていたことも、良好な関係性づくりが、結果として効果的な研修づくりに寄与していたのではないかと思います。

3点目には、新型コロナウイルス対策です。多くの集合研修がオンラインに切り替えられたり、中止になったりしていますが、対面して言葉を交わした方が良い場合も多くあります。本研修中はこまめな手指消毒、マスクの着用、ディスカッションや救急講習時のフェイスシールド着用など、折にふれ注意喚起をいただきました。医師が講師としていらっしゃったことも安心材料でした。開催の決定の判断は難しいものだったと思いますし、準備には大変ご苦労が多かったと思いますが、新しい様式を模索している中で「リアルに集まる意義」を考えるにあたり、大変参考になりました。

最後になりますが、福井岳連の皆様、講師の先生方、主催の皆様、研修を開催いただき、誠にありがとうございました。参加者の方々も様々なアドバイスをいただきました。心からお礼申し上げます。



実技 応急手当



読図研修

2020年ISMF総会報告

今年の総会は当初アメリカのコロラド州で予定されていたが新型コロナウイルス流行事態のなかでスイスでの実施に変更され、さらに最終的にオンライン会議形式での実施となった。事前に文書を配信し、質疑応答もオンラインで受け付け、投票も事前に用紙をデータ配布しオンライン投票となった。そのため総会本番の前に事前に通信テスト、提出動議に関する質疑応答オンライン会議が別日程で設定された。総会当日は9月26日、日本時間22時からであった。この会議では、投票結果の公表を中心に1時間半程度で終了した。

こうしたZoomによるオンライン会議では、集中できるのは2時間がせいぜいであるし、会議参加者が世界各国にまたがり時差も様々なので、複数回に分け一回を2時間以内で終了させるよう設定したのは正しい選択であった。しかし総会は一年に一度、競技関係者が顔を合わせて交流を深める得がたい機会でもあるので、コロナ禍が収まれば来春をめどに臨時総会を設定して交流の場としたいとの意向が理事会から提案された。おそらく世界選手権の時に合わせて開催されるのではと推測される。

2019-20シーズンでは世界的な新型コロナウイルス流行のせいで5つのワールドカップ戦、大陸選手権のうち3大会がキャンセルされ、大会登録料、選手登録費が大きく減り連盟の大幅歳入減につながった。そこでいくつかの有力な連盟が緊急寄付を寄せて急場をしのごととなった。

この状況を鑑み連盟年会費も見直され、日山協の負担分も、500ユーロ/年から750ユーロ/年に値上げされた。

明るい出来事としては、本年1月にオーストリアのインスブルックで開催されたマスター冬季競技世界大会(年齢が50才前後までの選手を対象とする複合スポーツ大会)において、山岳スキーが正式種目として実施された。さらに2月にはスイスのローザンヌで開かれたユースオリンピックで山岳スキーが正式種目として実施されたことが上げられる。会場にはIOCバツハ会長以下幹部も観戦に訪れ、今後の正式種目化に向けてIOCに対する大きなアピールとなった。韓国平昌で開催予定の次回2024年ユースオリンピック冬季大会での種目化については、現在交渉中であるが簡単ではないと思われる。しかし種目化される場合に向けて、日本国内のユース選手強化を考える必要がある。

2026年トリノ・コルチナ冬季大会での種目化については、かなり可能性があると思われるとの報告があった。それは、ユースオリンピックでの実績、イタリアはこの競技の強豪国でありメダルが期待されること、前会長がイタリア人でイタリアオリンピック委員会や地元組織委員会にコネクションがあること、現会長がスイス人でIOCに近いことなどが有利に働くと思われるからである。すでに組織委員会からIOCに対して山岳スキー競技を新規採用競技とするよう要望が出ているとも聞く。

すでに今シーズンもヨーロッパでの新型コロナウイルス流行の影響が終息するのか拡大するか見通せず先行きに不安が残る。すでに2021年3月下旬にドイツでの開催が決まっていた世界の軍隊が競う冬季競技大会CISMが一年延期となった。また2月3日~6日に予定されているフランスワールドカップ大会も中止となった。ISMFでは代替会場を探している。

2月下旬に世界選手権が、また、中国では昨シーズン開催できなかったアジア選手権などが予定されているが、これらも延期の可能性がまだ残っている。

相次ぐ大会の中止とそれに伴う歳入の大幅減などISMFは難しい局面にあると言える。しかし本部では、オリンピックを見据えアジアでの競技普及・競技団体の強化を推進したい意向があり、それに沿って停滞しているISMFアジア分科会を再活性化したいと、10月にも日中韓の東アジア競技団体会議をオンライン実施する運びとなった。2024平昌冬季ユースオリンピックを見据え日本としても積極的に関与してほしいと求められた。

(山岳スキー委員会 笹生博夫)



2019世界選手権大会のIndividual

第17回山岳遭難事故調査報告書 (3)

山岳事故のリスクマップ (R-Map)

図は7段階のIICに対して、発生頻度を男女別に算出したもの。図中、リスク対応をレベルに応じ4段階にグループ分けした。

登録データの大半の分布が発生低減域(黄色)か回避域(赤色)にあり、死亡/回避域に男女ともに入るなど、深刻なデータが登録されている事が分かる。

障害程度と事故原因

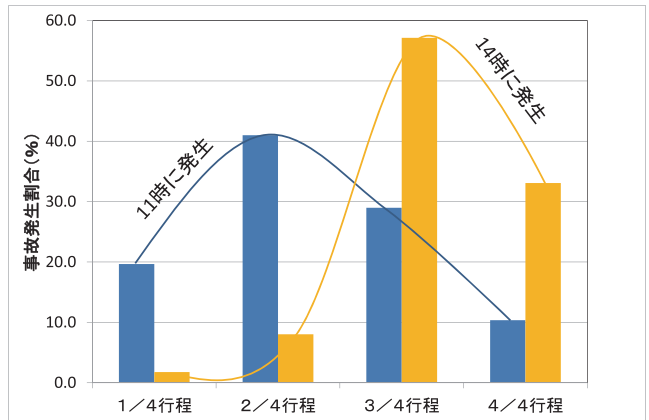
要因	IIC						総計
	0無症	1軽症	2中症	3重症	4重体	5死亡	
滑落	117	152	365	121	30	44	829
転倒	307	433	998	237	8	8	1995
墜落	24	49	113	35	6	6	233
道迷い	14	49	16	22	14	9	130
疲労	55	42	81	17	3	3	201
発病	14	7	14	5	4	5	49
落石	14	24	44	13	1	2	98
雪崩	6	1	4	2	5	6	24
悪天候の為の行動不能	30	7	9	7	6	3	62
有毒ガス						1	1
鉄砲水		1		1		3	5
落雷	2	1	3			1	7
いさかい			1				1
野生動物・昆虫の襲撃	23	22	8	1	2		56
不明	6	10	18	4	5	2	45
その他	81	109	188	48	4	4	435

黄色領域は各IIC出のピーク値

滑落の死亡74人が群を抜いて多い。また、転倒は全体の半数を占める。なお、3団体に登録される道迷いは少ないが、死亡率が高い。

魔の11時と14時のヒューマンエラーによる違いは疲労事故は約4割が3/4で発生する。

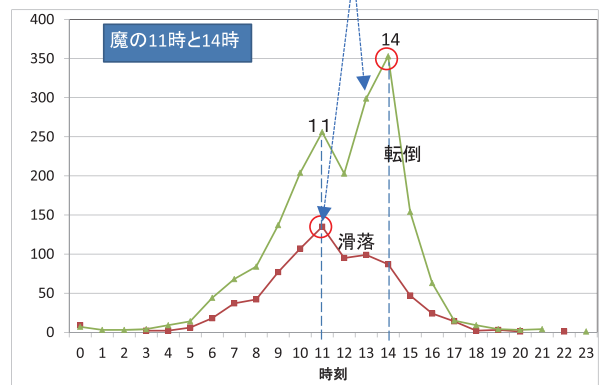
事故の発生は、午前中は出発間もない段階で発生、11時ごろ前半から後半に移行する頃、最初のピークを迎える。さらに昼過ぎには3/4で多発するが、魔の14時には最終行程4/4になる人も多い。



魔の11時の滑落ピークと14時の転倒ピーク

時刻	IIC						総計
	0無症	1軽症	2中症	3重症	4重体	5死亡	
0		9	7	12	1		34
1				4			4
2			2	1	2		5
3		1	1	4	2	2	10
4		2	4	6	4		16
5		6	1	14	6	1	28
6		10	16	36	10	1	74
7		18	22	68	11	2	128
8	1	23	46	70	18	2	163
9	1	41	74	132	28	6	288
10	2	69	101	193	47	6	424
11		89	106	257	75	12	547
12	1	59	95	174	66	11	411
13		84	100	260	55	6	509
14	2	106	129	282	59	2	581
15		49	63	134	37	5	292
16		29	28	59	17	6	142
17		16	7	18	6	3	54
18		9	5	10	2	2	28
19	3	6	5	10	1	1	26
20	2	2	2	3	2		11
21	1	5	3	4			13
22		3		1			4
23		1	1	1	2		5

黄色領域は各IICでのピーク値



発生時刻に見る障害程度は、2つの時刻に明確な違いを示している。

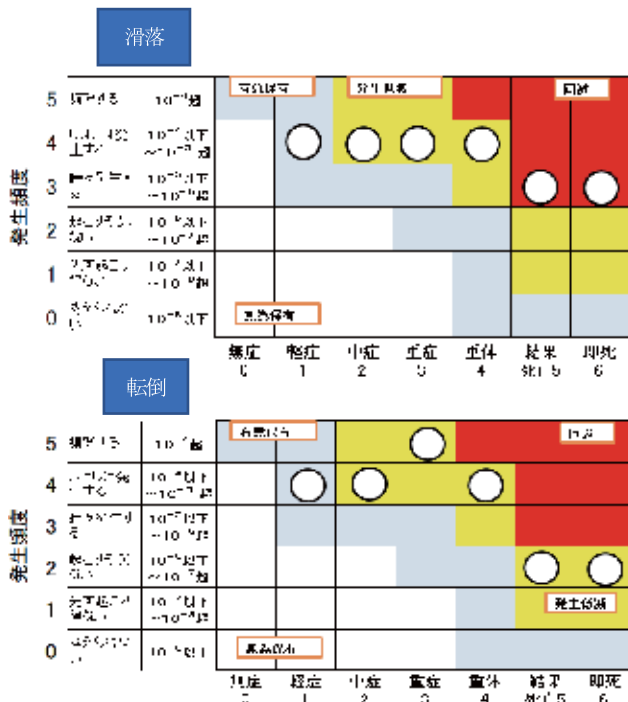
我が国登山者の主な行動は、5時～18時ごろと思われるが、登山活動が非常に幅広い事が分かる。例えば、魔の11時を見てみると、ピークは2/4行程(42%)であるが、まだ、出発して間もない1/4も20%いる。

一方、早朝出発した3/4で29%、間もなく登山を終える4/4で10%いる。

一方、夜間行動での事故も少なくない。その大半が4/4で多くなるので、長時間歩いてきたのかもしれないが、真夜中に出発していく人の事故も見られる。

時刻	IIC			
	1/4行程	2/4行程	3/4行程	4/4行程
0	3	6	13	3
1			1	1
2			4	1
3	1		3	3
4	5		3	4
5	18	5	1	1
6	53	2	7	2
7	89	15	9	5
8	99	30	11	7
9	169	56	30	16
10	176	114	80	22
11	95	198	140	50
12	31	88	197	59
13	6	75	307	78
14	9	41	292	169
15	3	9	130	127
16	6	3	55	66
17	1	4	15	25
18		2	4	13
19	4	1	13	6
20		1	3	7
21	1		4	7
22			1	2
23	2		3	

橙色は各時間のピーク値

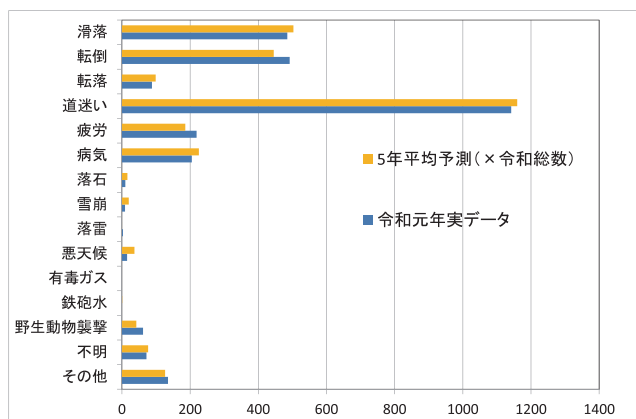


減遭難を目指した2つの事故要因群からの選択

事故統計の分析結果より、山岳遭難事故には、2タイプの事故要因群があると考えられる。

1つは、登山道で通常発生する事故であり、基盤要因と呼ぶ。他の一つは、天候、登山環境、人的環境に何らかの変化があり、特定の要因の影響が強くなる場合で、付加要因と呼ぶことにした。

基盤要因は、天候、登山道の状況、登山者形態などが通常の登山環境条件下で発生するもので、個々の事故要因の発生割合が殆ど変わらない。このことを立証するために、本年事故態様を5年平均から予測した。



図は、2019年度の事故態様(青色)である。比較のため、2019年事故総数を利用し、各要因の5年平均(2014-2018)から、予想発生数(橙色)を求めた。両者の値は、殆ど変わらない事が分かる。

付加要因は、悪天候などの環境条件の悪化や集団行動での意思決定ミスなど、悪条件が基盤要因に付加される場合である。その典型的な事例には、(悪天候、雪崩、火山ガス、落雷、噴火)の多発に加え、人為的誘導

ミスによる大量遭難など、予想が難しいケースが多い。

当然、社会は付加要因で発生した山岳事故に最大の関心を示す。一般に、遭難対策とは、これらの事例を対象としたものと思われる。メディアや遭難対策関係者でさえ、通常、発生する転倒事故には「滑って、転んだ程度」と関心を示さない。しかし、付加要因は発生しても全体の数%に過ぎず、事故の大半は基盤要因から発生している。

減遭難運動の対象とポイント

そこで、減遭難運動では、事故全体に占める割合が少なく、予想のつき難い付加要因ではなく、基盤要因を対象とすべきと考えている。

基盤要因を代表する滑落、転倒、道迷いなどは、山域全域で一様に発生している訳ではない。発生条件を満たす領域に偏在し、発生すると推定される。減遭難の効果的な対策では、この場所の正確な位置を見つけ出すことがポイントになる。

しかし、レスキュー(警察・消防)の事故報告には「山頂近くの斜面」程度の観察情報で、正確な場所を特定できない現状にある。

イギリスでは、早くから事故発生地点はGPSにより緯度経度が報告されてきた。発生場所が正確に特定されればその場所の地形的特徴も分かり、転倒、滑落を防ぐ対策も可能である。もし、同一箇所ですべて「滑落」が発生する事が分かれば、注意を呼びかける立て札、鎖、ロープの設置などの対策が有効となる。

減遭難の第一歩として、レスキュー関係者に、事故発生場所をGPS(携帯アプリ可)で測定する運動を展開したい。

(青山千彰)

文中の表欄、グラフのデータが小さくて読みづらいと思います。本協会のHPにパワーポイントのデータを掲出してありますのでご参照ください。
<https://www.jma-sangaku.or.jp>

創立60周年記念出版

『UIAA総合登山技術ハンドブックー夏季アルパイン』
日本語版 好評発売中!

創立60周年記念事業として国際山岳連盟(UIAA)とペツル財団著作の『Alpine-Skills:Summer』の日本語版(翻訳:大和田英子)を出版しました。A5サイズ、376頁、全頁カラー、頒価2,200円(税込・送料込み)購入ご希望の方は、下記郵便振替で代金をお振込みください。

郵便振替口座番号: 00110-5-546693
 加入者名: (公社)日本山岳・スポーツライミング協会

コロナ禍の中で、その後で (その3)

(一社) 大阪府山岳連盟会長 飛田典男

前号では、既存会員への傾聴とそれを活かすことについて私見を述べさせていただいた。

最後に、我々の活動の原点である使命に照らして将来の姿を考察してみたい。

JMSCAの定款で活動目的は、「安全登山を第一に山の環境と文化に配慮した登山及び山岳スポーツの普及振興を図る」とある。

先日の定時総会で、この活動目的に基づいた報告がなされたであろうか。

一向に減らない遭難事故に対して減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000!」が呼びかけられ、アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ!」の発信拡散等を行ったことは、大きな前進だと評価できる。恐らく、COVID-19による登山自粛もあって、令和2年の遭難事故総数は目標の1,000件を達成するかもしれない。その中で大阪では、ここ数年、複数の会員が山で命を落としている。事故原因を究明していくと、そこに新たな問題点が浮き彫りになってきている。これまで、中高年の単独登山者による事故の割合の高さが注目されてきたが、新たな事故要因についての対策が新たに求められている。今年の夏山での事故傾向がそれを示している。`安全登山第一、とするなら、後追いではなく先読みの手を打っていききたいものである。

次に`山岳スポーツの普及振興、である。スポーツクライミング(以下、SC)の予算はJMSCA 総予算の9割以上を占めている。これを見ただけでも組織の運営はSCが中心で動いていることが顕著である。ここに登山関係者が関わっていることで違和感があり、判断を狂わせている。SC関係者が予算管理に自らが責任を持って取り組み、選手育成と組織の構築に全力を投じ、国際大会で成果を上げるようにするのが、アスリートを擁する競技団体の本来あるべき姿である。登山と

SCが相互補完をするような関係にはなく、いみじくも定時総会で神崎顧問がコメントされたJCSAが正鵠を射ている。過去の歪みを取り除き、あるべき姿を標榜すべきである。

もう一度JMSCAの使命に立ち返り、登山の安全を確保し、山の魅力と登山の文化を継承し、山の自然との共存を目指す活動に共感し山を愛する人達に支えられる組織を目指すことだと考える。そして、20~30代の声が反映されるような新しいシクミが求められている。そして、ガバナンスコードに照らした組織の活性化(女性の登用、若返り他)を図りながら現代社会の組織に拘らない生活様式並びにダイバーシティに呼応した意識の練り直しが求められている。

COVID-19により山の多くの関係者から事業の存続に警鐘が鳴らされている。これらに有効なバックアップ体制を取るぐらいの気概が無ければ山は荒れ放題になりかねない。`自然との共存、を前提とした意識改革の元に日本の山に必要とされるカタチを創出していかなければならない。加えて、地図や計画書も必要としない整備されたコースとチャレンジを必要とするコースとの峻別である。この区分けが示されず、アヤフヤ過ぎることが事故に繋がっている。長野県発の「山のグレーディング」は画期的な試みで、これを更に一般の登山者に拡散し理解を深めていただくとともに全国に拡大したいものである。

JMSCAはスポーツ団体として文部科学省傘下とされているが我々の活動は観光庁及び環境省のもとで新たな活動の原点を創出していく取り組みが必要とされている。山岳ガイドに公的資格を付与することも早急に解決しなければならない課題である。添乗員資格ではない、プロガイドの位置付けは登山の安全性にも繋がる大きな課題である。

SCの五輪正式種目決定に踊らされた、この失われた数年を取り戻し、望まれる登山への舵取りがJMSCAに求められている。



令和2年度
第5回Web理事会報告

日時: 令和2年10月8日(木) 14:00 ~ 16:50

場所: オンライン会議

出席者: 亀山・平山・丸各副会長、尾形専務理事、小野寺・水島・合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、山口、水村、前田、六角、唐木、古賀、山本、古林、小日向各理事、中島、古屋各監事

欠席者: 八木原会長(膝手術入院中)、安藤理事

1. 開 会

八木原会長欠席の為、亀山副会長が会長代行となり、議長を務める。

事務局から理事21名、監事2名の出席が確認され、事務局がオンライン会議のホストを務めて議事に入った。

2. 議 題

(1)議案第1号 議事録の承認について

①令和2年度第4回理事会議事録の承認について(事前送付済)

異議なく承認された。

(2)議案第2号 予算管理規程の改定につい

て

以下の改定について提案説明があった。予算執行管理は、予算委員会が担当する。各専門委員会に管理監督者を設ける。異議なく承認された。

(3)議案第3号 令和2年度上期事業報告案について

11月理事会に諮るので、継続審議とすることで、承認された。

(4)議案第4号 アイスクライミング検討委員会について

JMSCAは従前通り事務手続きの支援をする。今後は検討委員として丸副会長、古賀・山口理事が当たる事が諮ら

れた。

異議なく承認された。

(5)議案第5号 スポーツクライミング体験会(新規事業)について
スポーツクライミング愛好者の底辺拡大を目的としたゴールドウインとのコラボ事業について諮られた。

異議なく承認された。

(6)議案第6号 令和2年度第3次補正予算について
S C部競技委員会(B Y C葛飾大会)と強化委員会(強化合宿とオンラインコンペ)の補正予算案が諮られた。

異議なく承認された。

(7)議案第7号 S Cコーチ認定承認について
指導委員会から以下の指導者認定申請が諮られた。

① S Cコーチ1

中村真緒、池田俊吾、川端久美子、須藤弥沙、寺田亨、鹿島洋三、鹿島千絵、小川弥生、斎藤雄太、佐々木章人(以上10名)
異議なく承認された。

(8)議案第8号 各都道府県の講習会・検定会を夏山リーダー認定講習会することについて
大阪府岳連のインストラクター認定制度を夏山リーダー制度認定講習会とすることが諮られた。

異議なく承認された。

3. 報告

(1)報告第1号 令和2(2020)年度9月・月次決算報告について
相良理事より9月月次の報告があった。

(2)報告第2号 令和3年度予算編成方針について
予算委員会での検討結果について報告があった。

(3)報告第3号 ガバナンスコード(G C)自己説明及公表について
ガバナンス委員会の対応状況について報告があった。

(4)報告第4号 国体ブロック別研修会開催について
令和2年度の開催要項について報告があった。

(5)報告第5号 国際・A C委員会常任委員について(新規)
瀬沼勉(神奈川岳連)氏が新たに常任委員

員となった。

(6)報告第6号 毎日スポーツ人賞候補者推薦のお願いについて
毎日スポーツ人賞の推薦依頼が報告された。

(7)報告第7号 70回日本スポーツ賞/5回パラスポーツ賞開催見送りについて
今年度は行わないことが報告された。

(8)報告第8号 J M S C A 創立60周年記念特別功労表彰者の推薦について
加盟団体への推薦依頼が報告された。

(9)報告第9号 L Y C プログラムと今後の国内競技大会日程、ガイドラインについて
村岡理事より資料に基づいて報告され、選手の帯同について質問があった。

(10)報告第10号 日本代表選手オンラインコンペについて
古林理事から資料に基づいて報告があり、チャリティーについては丸副会長から補足があった。

(11)報告第11号 後援名義使用申請について
京都府岳連主管のワールドマスターゲーム2021(スポーツクライミング競技)の後援承認が報告された。

(12)報告第12号 アスリートパスウェイ鳥取合宿報告
古林理事から資料に基づいて報告があった。水村理事から補足があった。

(13)報告第13号 B Y C 開催要項について
葛飾区東金町運動場スポーツクライミングセンターでの開催要項が報告された。

(14)報告第14号 文部科学大臣顕彰と表彰について
以下の方々の顕彰・表彰が報告された。

顕彰(選手): 植崎智亜
表彰(選手): 野口啓代、森秋彩、天笠颯太、田中修太、百合草碧皇、西田秀聖、関口準太、平野夏海

表彰(指導者): 安井博志、西谷善子

(15)報告第15号 公認大会について
スポーツクライミング九州カップの公認大会承認が報告された。

(16)報告第16号 第5回国際ロッククライミング研究学会の後援名義申請について
延期に伴う再申請の報告があった。

(17)報告第17号 アジア選手権について
中国で開催予定のアジア選手権について

現状報告があった。11月14日に確定する予定との事。

(18)報告第18号 役員派遣について
(10月9日~11月23日)

①インテグリティ・コンプライアンス意見交換10月9日(金)13時~14時 日本ラグビーフットボール協会とオンラインにて
恒石委員長他ガバナンス委員

②第8回リードユース日本選手権南砺大会10月10日(土)~12日(月) 於:南砺市桜ヶ池C C 丸・平山副会長、村岡理事

③ルートセッター研修会10月13日(火)~15日(木) 於:南砺市桜ヶ池C C 山本委員長

④J O C 専務理事等会議10月16日(金) Web会議 尾形専務理事

⑤東京2020オリパラに向けた新型コロナウイルス感染症対策に係る政府・競技団体間連絡会議10月20日(火) オンライン会議 尾形専務理事

⑥富士山利用者負担専門委員会10月23日(金) オンライン会議 尾形専務理事

⑦U I A A 総会 10月23日(金)~24日(土)13時~17時30分 C E T 時間 オンライン 丸副会長、小野寺常務理事

⑧スポーツクライミング体験会10月24日(土) 於:福岡・Bara Hands Climbing Gym 原田事務局長

⑨夏山リーダー養成講習10月24日(土)~25日(日) 於:神奈川県山スポ及び丹沢 蛭田理事他

⑩スポーツクライミング・ジャパンツアー2020(B/S) 10月24日(土)~25日(日) 於:岩手県宮運動公園 宮澤委員長

⑪神奈川山スポ施設指定管理者評価委員会10月26日(月) 於:神奈川県スポーツ課 小野寺常務理事

⑫第81回宮崎国体視察10月27日(火)~28日(水) 於:宮崎県 平山副会長、西原委員長

⑬山岳スキーアジアカンファレンス打ち合わせ10月27日(火) オンライン 丸副会長 笹生委員長

⑭令和2年度上期監事監査10月30日(金) 於:事務局会議室 古屋監事、尾形専務、小野寺常務理事、相良理事

⑮山岳遭難事故報告会10月31日(土) オンライン 町田理事

⑯安全登山サテライトセミナー10月31日(土)~11月1日(日) 於:兵庫県立「のじぎく」会館大ホール 古賀・前田理事

⑰日本代表選手オンラインコンペ10月31日(土)~11月1日(日) 於:西条市石鎚クライミングパーク 丸副会長、古林理事他

⑱スポーツクライミング・ジャパンツアー2020(B) 11月7日(土) 於:西条市石鎚クライミングパーク 宮澤委員長

⑲夏山リーダー養成講習11月7日(土)~8日(日) 於:神奈川県山スポ及び丹沢 蛭田理事他

⑳I F S C 総会11月13日(金)~14日(土) オンライン 平山副会長 水村理事

㉑登攀技術研修会11月14日(土)~15日(日) 於:広島県備後蔵王岩 蛭田理事

㉒日本勤労者山岳連盟創立60周年記念レ

寄贈図書

会報	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.510 202010
	トータル・オリンピック・レディス会	「TOLだより」第35号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第640号
	(公財)全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」Vol.39
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2020年10月 No.370
	(公社)東京都山岳連盟	「とがくれん通信」2020年3号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」11月号 No.549
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」2020年10月号 No.34
	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.119
	やまびこ山想会	「やまびこ」第190号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1088
	(公社)日本山岳会	「山」2020年10月号 No.905
	日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト	「HAT-J NEWS」No.119
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.731
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」9月号 第476号、10月号 第477号
広報誌	(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレイニュース」Vol.120、Vol.121
雑誌	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」11月号 No.1028
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」11月号 No.881
新聞	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2303号、第2304号、第2305号

セプション 11月14日(土) 於:ホテル
東京ガーデンパレス 八木原会長他

- ②安全登山指導者研修会(西部地区)
11月21日(土)~23日(月) 於:香川県立
五色台少年自然センター
八木原会長、水島常務理事
- ④第6回ボルダリングユース日本選手権葛
飾大会 11月21日(土)~23日(月)
於:葛飾区東金町運動場スポーツクライ
ミングセンター 丸副会長、村岡理事



想像をはるかに超える“保温力”
超肌着

表紙のこぼ

ヌブラ谷のサソマから旧中央アジア交
易ルートを辿って、マモストーン氷河出合の
放牧地、スキャンポチュに着くと、アクタ
シ(Aqtash, 7,016 m)の圧倒的な大岩壁が
望まれる。南にヤンバー氷河、東にアクタ
シ氷河、北にタンマン氷河を有するアクタ
シは、マモストーン氷河の出合に恰もマモス
トン・カンリのジャンダルムのように立ち
はだかる。アクタシは「白い岩」の意。

1993年、広島山岳会とインド・チベット
国境警察隊の日印合同隊が挑み、日本側は
南西壁の中央クーロワールにルートを取り、
8月6日に初登頂。初登頂者の一人は、
本協会の顧問弁護士・溝手康史氏。インド
側は、南西壁から南稜にルートを取って8
月8日に登頂した。

(写真撮影者 尾形好雄)

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

編集後記

「Climb for tomorrow 2020 プロジェク
ト」を御存じですか? JMSCAアスリ
ト委員会の日本代表選手が、一日でも早く
世界の仲間たちと競技が出来ることを願い、
新型コロナウイルス感染症対策に携わる人たちの支
援のため立ち上げたプロジェクトです。

WHO 新型コロナウイルス感染症連帯対
応基金に寄付する予定です。詳細は下記か
ら。12月29日まで皆様の温かいご支援を
どうぞよろしく願いたします。

ホーム > お知らせ > 2020年 > 「Climb for
Tomorrow 2020」新型コロナウイルス感染症対策支
援プロジェクト 支援金募集

(広報担当 水島彰治)

登山月報 第620号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和2年11月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」



12月号
発売中

【特集】山と絵

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格880円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 年間購読なら12冊 1冊分おトク!

~~10,560円(税別)~~ → **9,680円(税別)**
11,616円(税込) 10,648円(税込)

年間購読特典

A4サイズが入る!

岳人 トートバッグ
丈夫なコットン製で
マイバッグとしても
重宝します。
▶サイズ:幅36×高さ37×高さ11cm

全国1,800カ所以上で
ご優待!
岳人カード
全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ることを繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証を
かざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからもお申込みいただけます